

〔山之井〕雪などふる朝は、さは姫のねりかづきとも、年徳の白木綿花ともいひたつ、松の内に降
雨はおさがりといひならはせり、あめの玄たのこばれ幸など、めでたくいひなす、

おさがりはあまのさかほこの雫哉 了三、略中都て正月は世のつねにかはる事のみぞおほ

き、鼠をよめがきみとよびなまこをたはらごととなづけ、朝夕のねつおきつをもいねつむいねを
さむなどいひ、猶ひらきまめ、いものかみなどやうにいひつけたることわざ、ことくゝ玄るすも
うるさければなん、思ひ出て句にしつらねば、其ことのき、にくからず、あまりに賤しからぬを
ぞいひ侍るべきにや、

〔一話一言 二十六〕八丈島方言

正月祝ことは、イチニチビ、元日の事、フツカビ、二日の事、ミツカビ、三日の事、コウニチ、九
日の事、イチツミ、煩ふ事、カワフクロ、猫の事、常々ハチツヨメゴドノ、鼠の事、マイタマ、芋
頭の事、トミサガリ、雨降る事、ヲ、フク、福茶を祝ふ事、クロラトコ、出家の事、但正月四日

國ガへ、死去の事、イトヒキ、女經水の事、

〔華實年浪草 一上〕若餅三ヶ日ノ間ニ搗チ若餅ト云由、古老イヘリ、雑談抄ニ、一説ニ云、三ヶ日ニ餅

是賀客ニ饗スルニ便リ有ユヘニ、小キチ賄フル故ト云々、唯可爲祝語而已、

〔神代餘波 下〕正月元日朝嚏すれば、傍より常萬歳といふ事あり、みづからは糞食クツクラといふ人あり、常
萬歳は天竺にて、長壽といへるよし、四分律にあり、から國にては、沿襲ユヅク離リ萬歳マンサイといへり、また糞
食は簾中抄、壺囊抄、拾芥抄等にある、休息クソク萬命マンメイとよき字をえらびて假たるを字のまゝに休息クソク萬
命とよみたるをあやまりて、糞食となりしならんか、る事はあまた記して、神代のなごりに似
つかはしからねど、既に清少納言もえたりがほなるものといへるくだりに、むつきのついたち
の早朝に、最初に嚏たる人と、枕草紙にいへり、亦下つ巻のとちめにしあれば、祝辭戲言まじへて、